

西來寺報

二〇一八年 秋
第三十一号

お内仏とは

浄土真宗の門徒は、ご本尊を安置したお仏壇を「お内仏」と呼びならわしてきました。ご本尊・阿彌陀如来は、私たちを救おうとする色も形もない真実の「はたらき」であり、その「はたらき」をお内仏を通していただけてきました。お内仏を安置するということは、《私たちの人生にとって、本当に大切にしなければならぬ尊いことは何か》と、いつも問いかけてくださる場を賜るということなのです。

ご本尊阿彌陀如来の「阿彌陀」とはインドの言葉を書写したもので「アミターユス」（無量のいのち）「アミターバ」（無量の光）というふたつの意味をもっています。また「如来」とは、「私に真理がはたらく」ということを意味します。そして木像や絵像はいつでも、どこでも、どんな人も、もろさず救いたいという

阿彌陀如来の《はたらき》をかたちどったお姿なのです。

ご本尊の前で「南無阿彌陀仏」とお念仏を称え、合掌・礼拝（らいはい）するのは、自分の思いが叶うようにと願う事をしたり、また亡き人の慰霊鎮魂のためではありません。お念仏は自分の思いを満たすため手段ではないのです。「南無阿彌陀仏」とは、仏さま（真理に目覚めた方）からの、私たちへの呼びかけです。苦しい時や悲しい時、自分が嫌になった時、その苦しみや悲しみをごまかさずに、悩んでいる自分を大事に生きてほしい「本当に尊いことに気づき生きていってほしい」という深く大きな願いをもった仏さまからのメッセージなのです。その願いにふれ、その願いに応えて私も「南無阿彌陀仏」と称えるのです。以上のように、生活の場をもつたら（亡くなった人がいなくても）ご本尊をお迎えしてください。

尚、仏壇を置く場所が無ければ、三つ折り本尊を安置することが出来ます。お内仏の詳細については次回の方でお話し致します。



お知らせ

● 秋のお彼岸

9月20日(木)～26日(水)

本堂受付は23日(日曜日)まで

● 報恩講

平成30年報恩講

十月二十八日(日)

法要開始午後一時

講演開始午後二時十五分

終了午後四時

講題『日本の仏教』

～ 仏教伝来 聖徳太子から

～ 一気にまいります

報告 浄土真宗はじめの一步

去る8月4日に『浄土真宗はじめの一步』を開催いたしました。この講座は日頃行っている勉強会とは視点を変えて「仏教は難しい」「お寺は近づきにくい」と思っている方に向けて内容を考えた入門講座として開催しました。

お念珠の正しい持ち方の説明から始まり、『正信偈』のお勤め、お内仏の説明と基礎的な事を改めて取り上げました。参加した方から質問もあり、勘違いしていた事、知らなかった事が色々あったようです。

後半は佐々木正先生にご講義頂きました。講演始まってひと言目に「仏法は毛穴から染み込むというので、皆さんが眠くなったら毛穴を信じてどうぞ眠ってください」という先生の大らかな空気にリラックスしてお話を聞ける時間となりました。内容は仏教の始まり、お釈迦様の出家の話から、大乘仏教が始まる歴史、聖徳太子、法然上人、親鸞聖人の話、浄土真宗の話など、色々とお話し頂きました。

連載

御内陣

今回はシリーズ御内陣第2回として、親鸞聖人の絵像をご紹介します。せて頂きます。



先ず御内陣のどこにあるか、分かりますか？ 阿弥陀様を真ん中として、そのすぐ右後ろで、全体から見ると、右から2番目です。御開山(親

鸞聖人のこと)の絵像は黒塗りの家のような屋根のような、お厨子(ずし)の中に安置されています。よく見ると上の方になんか書いてあります。「観仏本願力 遇無空過者能令速満足 功德大宝海」これは浄土論(天親菩薩の著)の一節です。そしてその後に「見真大師」と書いてあり、これは親鸞聖人に明治天皇から下賜された名前です。

厚い畳の高座に座っておられます

が、それは讃えられているということとを表しています。手にはお念珠を持つていますが、細かく見るとお数珠を指で数えているような仕草に見えます。リズムを取っていたのでしょうか(大抵そう描かれている)。また首には白い布で出来た襟巻きのようなものが巻かれています。これも大抵そのような描かれているので、案外寒がりだったのかもかもしれませんね。

この絵像は明治時代に本山からいただいた物で、昭和の西来寺大火災の時にご本尊とともに持ち出され、難を逃れたものです。



蓮のきれいな季節ですね。西来寺

の鶴の池(上の池)では、住職の希望で3年前から蓮と睡蓮を栽培しています。しかし、なかなかうまくいかない! 食欲旺盛のザリガニに根っこごと食べられてしまうんですね。蓮根ができるだけあって蓮の花は美味しいらしい。しかし数々の努力の成果か、今年見事に咲きました! 泥から咲いた蓮の花

といわれるだけあって、本当に心が洗われる程きれいです。しかしよく見ると、蓮の花と睡蓮の花つてずいぶん違うんですね。漢文では全部「蓮華」と訳されているので、(英語でも Lotus)同じかと思いきや違うんです。本堂の中にたっさんの蓮華のモチーフがありますが、ちゃんと使いつけているようです。

西来寺の近くに、神永さんという御門徒さんがいらっしやいますが、長く蓮を栽培なさっています。今年も素晴らしい蓮を見せて頂きましたが、白蓮華の香りには驚きました! 気高く甘く、心打たれる香り・・・忘れることの出来ない香りです。蓮の鉢は通りに面する場所に置かれており、通る方々は毎年心待ちにしていることと思います。

今に息づく仏教

西来寺としては「目指せ! 神永家!」と行きたいものです。

〜タイの洞窟救出によせて〜

タイで少年たち13人の洞窟無事救出には皆さんも心からホッとなさったことと思います。一部で情報操作、

責任問題等色々いわれていますが、同じ仏教徒として一言書かせて頂きます。

洞窟内で英国人ダイバーに最初に発見された映像をご覧になったと思います。何日も洞窟に閉じ込められているにもかかわらず、合掌して微笑みながら挨拶をする少年達。私はこの映像に衝撃を覚えました。ちょうどオウムの実行犯の処刑が伝えられた時期とも重なったからでしょうか、私自身がその映像に救われた気がしたので。僧侶経験者のコーチが瞑想を指導して、体力の温存がなされ、かつパニックにもならなかったといわれています。コーチとの信頼関係の深さもうかがえます。

光もない、食料もない、そして最後には酸素までが薄くなっている中でのあの強靱な精神力。仏教(キリスト教の少年もいたそうです)が今に息づいて人々を支え見守っている、そしてそれに安心を得て生きる人々。この事件は忘れがただけど忘れてはいけない大切なことを私に気づかせてくれました。

合掌